

【公立大学法人福山市立大学】「令和4年度業務実績に関する評価結果」の2023年度(令和5年度)の業務運営等への反映状況

No.	福山市公立大学法人評価委員会の指摘事項	2023年度（令和5年度）の業務運営等への反映状況
1	<p>理事長・学長のガバナンスのもと、特に教育・研究に関する中期目標の達成に向け、目指す姿や目標・指標、取組事項を、具体的に計画に掲げるなどにより、振り返りや評価を行い、より機動的な法人運営に努められたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市経営学部の専門教育科目（学部基礎科目・基幹科目）について、論点等の整理を行いながら、発展的な見直しを検討している。 ・その検討に当たり、都市経営学の学問領域の目標やカリキュラム構成を明確化するため都市経営学研究交流会を2回、学部の総合的な議論や共通認識を形成するため都市経営学部の集いを8回開催した。その中で、学問的分野の大枠や専門教育の在り方、研究活動の進め方等を議論し、学部のめざす姿や今後の取組等について、共通認識を形成した。 ・また、意見交換等を活性化させるため、実会議だけでなく、オンライン上に専用チャンネルを開設し、授業運営や高大連携・産学連携等に関する情報共有を図るとともに、カリキュラム等に関する意見集約を行った。 ・これらを踏まえ、学部教授会で進捗状況を随時確認しながら、2024年度（令和6年度）中に現行のカリキュラムの検証を完了させ、より効果的かつ充実した専門教育を提供できるよう、新たなカリキュラムに基づくカリキュラムツリーとカリキュラムマップの作成をめざす。

【公立大学法人福山市立大学】「令和4年度業務実績に関する評価結果」の2023年度(令和5年度)の業務運営等への反映状況

No.	福山市公立大学法人評価委員会の指摘事項	2023年度（令和5年度）の業務運営等への反映状況
2	<p>教育研究の質の向上や人材育成の充実のためにも、大学院生の確保に向けた具体的な施策に取り組まれない。</p>	<p>〔教育学研究科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度（令和4年度）に制作した「小学校の現職教員向け」、「就学前施設職員向け」、「リカレント用」の3種類の社会人向け大学院パンフレットを活用し、教員が教育・保育の現場等に出向いた際に配布するなど、様々な機会を捉えて戦略的な広報活動を展開した。 <p>〔都市経営学研究科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度（令和4年度）に制作した社会人向け大学院パンフレットを改訂し、近隣の商工会議所等を訪問した際や各種会議、教員の教育研究活動等の機会を通じて配布した。 ・都市経営学研究科の研究活動を広く紹介するため、4月に都市経営学・教育研究展示会を開催し、授業で制作した図面や模型等の展示、修士論文を紹介するパネルの設置など、教育研究の取組を広くPRした。 ・また、修士論文を紹介するパネルは、学生の往来が多い学内のスペースに常設するとともに、修士論文を製本化し、附属図書館に設置することで学生にもPRしている。 <p>〔教育学研究科・都市経営学研究科共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より魅力的な情報発信を行うため、新たに、大学案内にある大学院概要の充実や、大学院のホームページのリニューアルを行った。特に大学院のホームページのリニューアルについては、教員の専門領域、研究テーマ、研究の詳細、指導可能なテーマ等を紹介するページを追加するとともに、受験生に向けて出願から入学までの流れを分かりやすく説明するページも追加した。 ・大学院生の確保と共に、リスクリング等の人への投資の課題に対応すべく、社会人の受入拡大など大学院教育の在り方の検討に着手している。 ・オープンキャンパスなど様々な機会を捉えて、大学院生も参加するなど工夫を凝らしながら入学説明会を実施した。 ・上記の取組の結果、2024年度（令和6年度）大学院入学選抜における教育学研究科の入学者は2人、都市経営学研究科の入学者は0人であった。大学院存続の危機的な状況を改善するため、再編を含めた大学院そのもののあり方を検討する体制整備を急務として、全学を挙げた取組を推進していく。

【公立大学法人福山市立大学】「令和4年度業務実績に関する評価結果」の2023年度(令和5年度)の業務運営等への反映状況

No.	福山市公立大学法人評価委員会の指摘事項	2023年度（令和5年度）の業務運営等への反映状況
3	<p>修士論文発表会への学部生の参加を促す方策を講じるなど、学部生と大学院生の教育研究交流に一層取り組まれたい。</p>	<p>〔教育学部・教育学研究科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生に大学院生の修士論文発表会への参加を呼び掛け、7/6開催の研究構想発表会については2人、10/26開催の中間発表会については1人、2/15開催の最終発表会については3人の学部生が参加した。 ・2022年度（令和4年度）に引き続き、「学術の日」を11/27に開催し、「どうつながる？現場と児童教育学」をテーマに教員が研究発表をする研究交流会を実施した。学生や大学院生、教職員など34人が参加し、児童教育学を俯瞰的に考える議論や交流を深めた。 <p>〔都市経営学部・都市経営学研究科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生に大学院生の修士論文発表会への参加を呼び掛け、2/22開催の最終発表会に2人の学部生が参加した。 ・また、大学院生が教育補助業務を行うティーチング・アシスタントを通じて、実験・実習・演習等で大学院生と学部生が交流し、大学院生の知識や技能等の伝達に寄与するとともに、大学院を身近に感じられる機会を設けている。

【公立大学法人福山市立大学】「令和4年度業務実績に関する評価結果」の2023年度(令和5年度)の業務運営等への反映状況

No.	福山市公立大学法人評価委員会の指摘事項	2023年度（令和5年度）の業務運営等への反映状況
4	<p>外部研究資金の獲得について、一層の申請・獲得件数の増加につながるよう取り組まれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費の獲得推進に向け、申請書類の点検を行う教員を増員するとともに、科研費に係る各種説明会、セミナーに職員が積極的に参加した。 ・ また、全学教職員集会において、学長が科研費申請の取組方針を示し、全学を挙げて申請・採択件数の増加をめざした取組を展開することを確認した。昨年度に引き続き開催した研修会について、昨年度は1人だった学内講師を今年度は各学部から1人ずつ選出し、各学部の学問領域との関係性が高まる講演となるよう改善した。 ・ 取組の結果、2023年度（令和5年度）の申請件数（26件）・申請率（59％）は、2022年度（令和4年度）の申請件数（12件）・申請率（30％）と比較して倍増した。 ・ また、採択結果については、26件のうち8件が採択され、採択率が31％と、全国平均の新規採択率27.5％を上回る結果であった。特に若手研究については、申請件数4件のうち3件が採択され、採択率が75％と、全国平均の新規採択率40.4％を大きく上回った。 ・ 科研費以外の外部資金に係る公募情報についても、速やかに全教員に対して、メール配信による情報共有を行うとともに、学内共有フォルダで情報の集約を行った。その結果、2023年度（令和5年度）については、7件（奨学寄附金2件、受託研究1件、共同研究2件、補助金（研究）2件）の外部資金を受け入れた。 ・ 外部研究資金の獲得推進については、地域、企業、他大学等との連携した取組を推進するため、2023年度（令和5年度）から地域連携コーディネータを配置し、教員の研究内容のインタビューの実施や授業参観、企業訪問や商工会議所が主催するビジネス交流フェアへの参加など、地域ニーズと研究シーズをマッチングさせ、共同研究等につなげる取組を進めた。 ・ 2024年度（令和6年度）も引き続き、全学を挙げて外部研究資金の獲得に向けた取組を推進していく。

【公立大学法人福山市立大学】「令和4年度業務実績に関する評価結果」の2023年度(令和5年度)の業務運営等への反映状況

No.	福山市公立大学法人評価委員会の指摘事項	2023年度（令和5年度）の業務運営等への反映状況
5	<p>全教職員を対象としたハラスメント研修を実施することにより、ハラスメントに対する理解を深めるよう取り組まれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重・多様性を学ぶため、全教職員・学生を対象とした人権・ハラスメント研修会を開催した。 ・福山市の出前講座を活用して、福山市多様性社会推進課の職員を講師に招き、昨今の社会情勢や福山市の取組等を学んだ（10/18：参加者77人）。 ・多くの教職員の参加を促すため、チラシの配布や学内ポータルで周知した結果、昨年度の参加者数65人を超える教職員が参加した。 ・また、参加できなかった教職員に対しては、研修会の録画のオンデマンド配信を行った。